

2027年国際園芸博覧会 サステナビリティコミュニケーション・ エンゲージメント計画（概要版）

2025年3月策定

2026年9月更新

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

- AIPH（国際園芸家協会）の規則等に基づき、サステナビリティ戦略、実施計画等の内容を踏まえて、サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント（C&E）に関するアクションの実施計画や評価等を記載した「サステナビリティC&E計画」を2025年3月に策定し、2026年9月に更新した。
- 様々なメディアでの情報発信と双方向のコミュニケーション等により、**本博覧会のテーマやサステナビリティに関するメッセージを様々な対象者に発信。**

1 はじめに

- C&E計画の目的
- 対象者 など

2 実施計画

- アクション
- ガントチャート

3 評価

- 実施したアクションの評価

1 はじめに

- C&E計画の目的として、様々なメディアでの情報発信等により、本博覧会のテーマやサステナビリティに関するメッセージを来場者や市民・地域社会等の対象者に発信することを設定。

主な記載項目	概要
目的	様々なメディアでの情報発信と双方向のコミュニケーション等により、本博覧会のテーマやサステナビリティに関するメッセージを来場者や市民・地域社会等の対象者に発信
対象者	・ 実施計画で設定した、以下の9つのステークホルダーから対象者を設定 来場者、出展者等、ボランティア、市民・地域社会、NPO・NGO、事業者、有識者等、政府・自治体、協会職員・運営スタッフ等
発信方法	広報活動、プロモーション活動、連携・支援活動、教育活動等により発信

2 実施計画（アクション）（1/2）

- サステナビリティ実施計画に記載した目標・アクションのうち、サステナビリティC&Eに関する目標・アクションと、追加を含めた計52のアクションを記載。

サステナビリティ実施計画の目標	アクション
会場計画へのユニバーサルデザインの導入	・ アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進
海外からの参加者（公式参加者）に向けた情報提供	・ 海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知
サステナビリティレポートの策定・AIPH報告	・ プレイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH報告 ・ ポストイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH報告 ・ サステナビリティ及びレガシーレポートの策定・AIPH報告

2 実施計画（アクション）（2/2）

● C&E計画の策定及び更新に伴いアクションを追加

追加時期	主要な追加的アクション	
C&E計画の策定時	- 公式ウェブサイトでの情報発信 - 公式SNSの活用 - 公式アンバサダーによる機運醸成 - 公式マスコットキャラクターの活用	「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」を使った市民参加の活動の推進 - ボランティア等の市民参加の推進
C&E計画の更新時	- ユニフォームに係る資源循環の取組発信 「人・自然・生命」シンポジウム - 公式記録集の作成 - ラボ会議 - 持続可能性有識者委員会	- 花と緑の共創推進会議 - リフィル・サーキュラープロジェクト - International Participants Meeting(国際参加者会議) - 公式スタンプラリー

3 評価

- 「2 実施計画」に記載したアクションのうち、C&E計画の策定及び更新時点で実施したアクションについて、日程、実施人数、振り返り（良い点、改善点）の評価を記載。

内容	主要なアクション	
評価を更新	・ アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進 ・ 海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知 ・ 公式SNSの活用 ・ 公式アンバサダーによる機運醸成 ・ 公式マスコットキャラクターの活用 ・ 全国都市緑化フェアとの連携 ・ ガーデンネックレス横浜との連携	・ 横浜フラワー＆ガーデンフェスティバルとの連携 ・ 県立横浜瀬谷高等学校等による「フラワーロードプロジェクト」との連携 ・ 県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進 ・ 教育プログラム コンセプトブックの活用 ・ 「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」を使った市民参加の活動の推進 ・ ボランティア等の市民参加の推進

【事例】 持続可能性有識者委員会

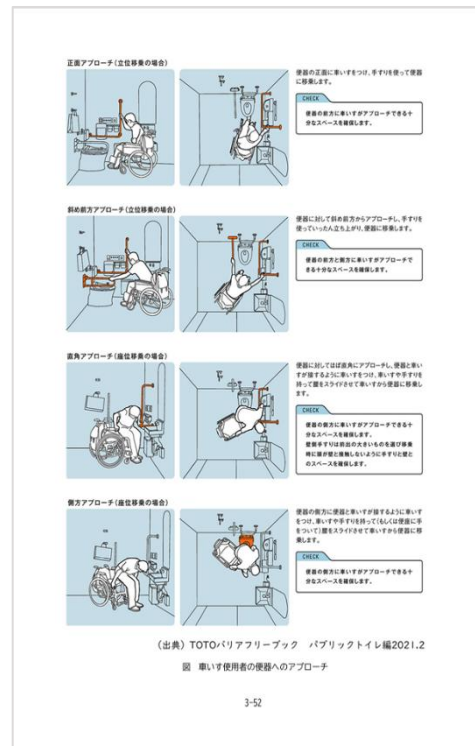
- サステナビリティに関する戦略や計画等の策定、取組推進に当たり、2023年10月から関連分野の有識者によって構成される持続可能性有識者委員会を設置し、継続的に開催。

■ 直近の委員会における主な議題

開催回	開催日	主な議題
第5回	2025年9月9日	・ プレイベント・サステナビリティレポートの作成 ・ 持続可能性に配慮した調達コードの運用 ・ ESMSの構築・ISO20121認証取得に向けた対応状況
第6回	2026年1月13日	・ プレイベント・サステナビリティレポート ・ 持続可能性に配慮した調達コードの一部改訂

【事例】アクセシビリティ・ガイドラインの策定

- アクセシビリティ・ガイドラインは、協会、出展者をはじめ、博覧会準備に関わる全ての関係団体・事業者が、博覧会に関するアクセシビリティのニーズを理解し、国・地域、文化、人種、性別、世代、障がいの有無等にかかわらず、本博覧会を訪れる全ての人々が安全・快適に過ごすことができるように配慮した計画・整備を行うための指針。



【事例】「人・自然・生命」シンポジウム

- 花や緑を慈しみ、自らの心を映してきた日本人の自然観を基礎に、シリーズ化したシンポジウムを開催。博覧会の機運喚起と自然と人間との共生の浸透を図る。



【事例】花と緑の共創推進会議

- 2026年2月の「第4回GREEN×EXPO 2027 花と緑の共創推進会議」において、花と緑の共創推進会議参加団体及び花・緑出展者（298名）が一堂に会し、花・緑出展者10者が屋外・屋内の出展内容を発表。



(屋外出展)

食や環境への取組に関する庭園や
花壇作品などを展示



(屋内出展)

屋内庭園、フラワーアレンジメント、
生け花、盆栽、農作物などの作品を展示